

愛知県環境測定分析協会のおゆみ



一般社団法人愛知県環境測定分析協会



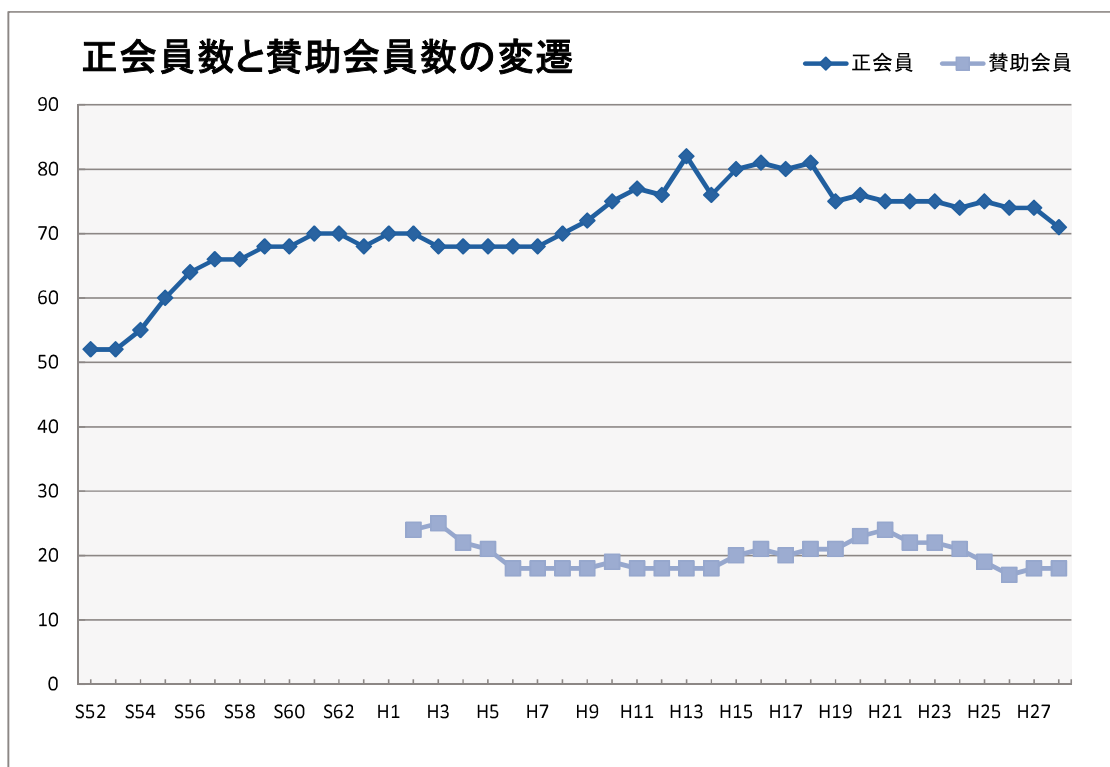
1. はじめに

愛知県環境測定分析協会は、会員の技術の向上と業界の健全な発展を確立するとともに、環境の改善並びに公害防止の一翼を担うため、県当局の指導のもとに、昭和52年8月9日に設立総会を開催し、協会として発足しました。

協会名称は、当初、「愛知県環境測定分析業協議会」とし、昭和59年に「愛知県環境測定分析協会」と名称変更、平成8年には、「社団法人愛知県環境測定分析協会」として法人化しました。そして、平成24年に、公益法人制度改革により「一般社団法人愛知県環境測定分析協会」となり、現在に至っています。

事務所は、当初、(財)東海技術センター（名古屋市名東区）内に設置し、昭和59年に名古屋市中区金山に移転しました。

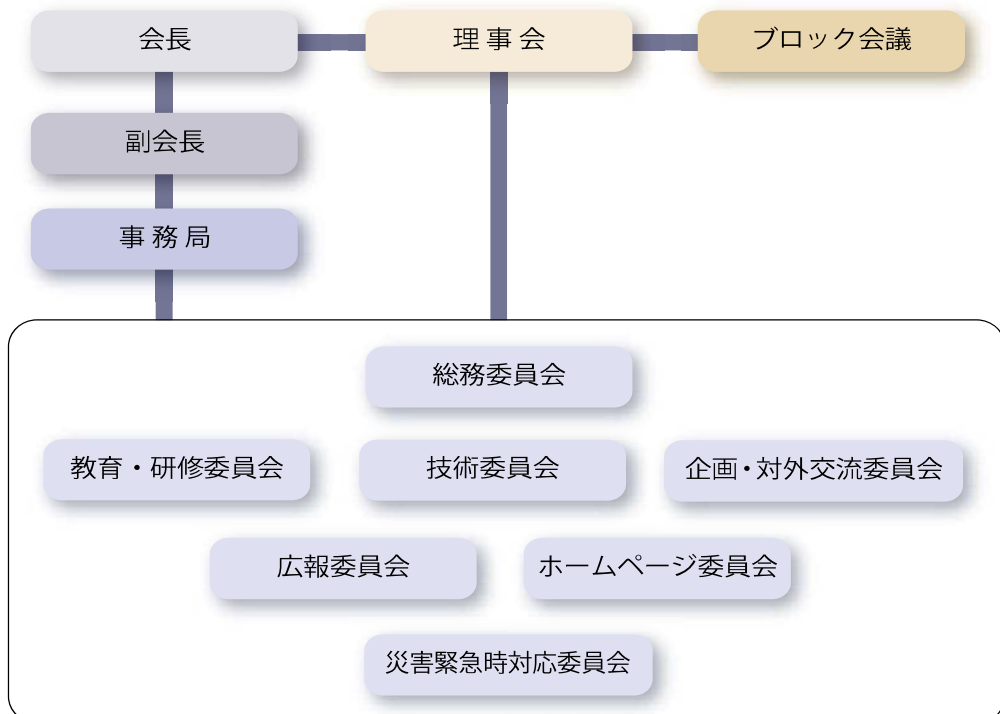
平成29年5月25日現在、愛環協は、会員企業：71社、賛助会員：17社で構成され、愛環協事務所内に日環協中部支部事務局（愛知、静岡、三重、岐阜、富山、石川）も設置され、密な連携を図っています。



2. 協会の体制と各委員会の主な活動内容

年 度	会長（代表理事）	副会長（副代表理事）
昭和52年	発起人代表 田中宏明 (株)サンコーアナリス	
昭和53年	村山博 (株)サンコーアナリス	伊藤清一 (財)東海技術センター
昭和59年		鈴木薫 いづみ化学工業(株) 堀田献 (財)東海技術センター
平成元年	堀田献 (財)東海技術センター	鈴木薫 いづみ化学工業(株) 三輪淳一 (株)愛研
平成2年	藤原昭二 (株)テクノ中部	
平成11年	石川清美 (株)テクノ中部	
平成15年	濱地光男 (株)ユニケミー 平成24年より公益法人改革による一般社団法人へ	三輪淳一 (株)愛研
平成16年		大場和子 (株)東海分析化学研究所
平成18年		大場和子 (株)東海分析化学研究所 阪野二郎 (財)東海技術センター
平成23年		河野達郎 (財)東海技術センター
平成25年～	河野達郎 (一財)東海技術センター	大野哲 (株)イズミテック

現在の愛環協の体制



これまでの委員会の主な活動

これまでの委員会	主な活動内容
政策委員会	会員の料金表調査、機関紙の発刊 会員の入退会管理、協会章の公募等 昭和54年～昭和63年
事業規程委員会	愛知県の指導により事業規程モデルを作成等 昭和52年～昭和53年
騒音レベル委員会	騒音計量証明書統一様式の制定、講習会の開催等 昭和56年～昭和60年
PR委員会	測定分析済証の発行を制度化、環境計量講習会を開催 愛知県主催の「くらしと計量展」に出展などの愛環協PRを主導 昭和54年～昭和63年
法人化(検討)委員会	法人化の是非のアンケート実施し法人化を検討 法人化を進める 昭和61年～平成7年
報告書作成委員会	水質・土壌の計量証明様式統一を作成 昭和52年～昭和63年
統一様式委員会	大気・排ガス濃度関係の計量証明様式統一を作成等 昭和55年～昭和63年
料金問題(研究)委員会	会員の料金調査、標準工数よりモデル料金作成 事業所実態からみた適正料金の検討等 昭和52年～平成1年
標準工数等検討委員会	会員料金調査結果を会員配布等 平成2年～平成5年
消費税表示カルテル 運営委員会	消費税について表示に係る共同行為の実施の届出等 昭和63年～平成2年

現在活動中の委員会の主な活動

活動中の委員会	主な活動内容
総務委員会	協会運営の基本事項の協議、各委員会の推進・調整、理事会への提言等
企画・対外交流委員会	協会新規事業の企画、特命事項・スポット行事の企画・運営(特別企画セミナー等)行政・他団体との交流や海外研修生の受入等の計画立案会員のための施設見学会、協会セミナー等の講師選定等
教育・研修委員会	会員に対する環境測定技術に関する教育 主な研修会として、新任者研修会、初級統計研修会、中堅実務者研修会、環境計量士等研修会、SOP研修会
広報委員会	会報誌「あいかんきょう」の企画・取材・制作・発行(年4回発行)
技術委員会	共同実験(クロスチェック)の企画・実施、説明会の開催 3つのWGで運用 (水質・土壌WG、大気・臭気WG、騒音・振動WG) ガスメータのチェック、改良点の提言、 技術発表会の企画・運営等
ホームページ委員会	愛環協のホームページの企画・制作及び公開 事業案内、会員紹介、新着情報、研修会等の報告等
災害緊急時対応委員会	自治体との災害協定に基づく調査、災害協力会員の認定 BCP(事業継続計画)の普及啓発

歴代理事、監事、顧問、委員会（平成 24 年度以降）

役員	委員会	社名	H24	H25	H26	H27	H28	H29
会長		(株)ユニケミー	濱地 光男					
		(一財)東海技術センター		河野 達郎				
副会長	総務委員会	(一財)東海技術センター	河野 達郎					
		(株)イズミテック		大野 哲				
理事	企画委員会 ※2	藤吉工業(株)	柴田 金作					角 信彦
		(株)愛研						
	対外交流委員会 ※2	(株)テクノ中部	宇野 孝					
		(株)愛研						
	教育・研修委員会	(株)ユニケミー	服部 寛和					服部 寛和※1
	広報委員会	(一社)愛知県薬剤師会	西脇 光正					
		(株)環境科学研究所		渡辺 敏紀				
		(一財)東海技術センター				菊谷 彰※1	林 辰哉※1	
	技術委員会	(一社)愛知県薬剤師会	長尾 隆宏※1	長尾 隆宏				
		(株)愛研						波多野 群樹※1
	災害緊急時 対応委員会	(株)愛研	鎌田 務					
		(株)イズミテック				大野 哲		
		(株)環境科学研究所						林 昌史
	ホームページ委員会	(株)環境公害センター	金田 哲夫					
		(株)アイエンス	豊田 豪					
		(株)環境総合リサーチ	佐藤 正敏					
		(株)三進製作所	加藤 隆		阿部 裕士			
		(株)環境科学研究所				林 昌史		
		(株)テクノ中部				平松 正義		氏原 和彦
		(一社)愛知県薬剤師会				田村 励治		
	東亜環境サービス(株)				武藤 鉦一			
	(株)ユニケミー				濱地 清市			
監事		(株)東海分析化学研究所	大場 和子					
		壽化工機(株)	佐野 教信					
		(株)矢作分析センター	安井 元一					
		藤吉工業(株)	柴田 金作					
顧問		(株)ユニケミー	濱地 光男					

※1 委員長のみ

※2 H29より企画委員会、対外交流委員会が統合し「企画・対外交流委員会」

総務委員会

● 平成 27 年度 DI 値

好転	23.4% (11 社)
変化なし	61.7% (29 社)
悪化	14.9% (7 社)
平成 27 年度 DI 値	8.5
平成 26 年度 DI 値 (参考)	▲ 9.8

DI 値 (景気動向指数) : 景況について「良い/悪い」「上昇/下落」といった定性的な指標を数値化したもの。

● 喚起標語

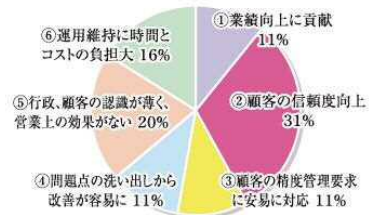


企画委員会

● ISO17025 の取得状況調査 H23



ISO/IEC17025の取得状況



ISO/IEC17025の取得効果

対外交流委員会

● 日環協全国セミナー H22



● 東濃地科学センター見学会 H24



● 日環協全国セミナー H28



ホームページ委員会

● トピックス、会員情報



● 東日本大震災 現地視察・調査報告書



● 写真コンテスト



広報委員会



- 広報紙「あいかんきょう」
 - ・表紙写真（会員から公募）
 - ・四季折々
 - ・トピックス
（年始挨拶、表彰、交流報告等）
 - ・委員会活動報告
 - ・ブロック会議報告
 - ・研修会聴講記
 - ・賛助会員紹介
 - ・測定機関紹介
 - ・趣味のコーナー
 - ・調査報告（景況調査等）
 - ・その他

災害緊急時対応委員会

- 東日本大震災現地視察 H23



- 災害緊急委員会



教育・研修委員会

研修会・講演会 年間スケジュール	
6月	新任者研修会
6月	環境月間講演会
7月	初級統計研修会
7月	危機管理研修会
9月	中堅実務者研修会
11月	環境計量士研修会
1月	SOP 研修会

● H22 環境計量士講習会



● H25 環境月間講演会



● H27 教育研修委員会



技術委員会

● 主な取り組み

3つのWGにて企画・運営（日環協中部支部と共催）
計量結果の表示に係わる数値の取扱い（規程集）の見直し
JIS改正伝達講習会

■ 水質・土壌WG

共同実験「模擬排水中のCOD及び全りん分析」（H28）
結果の評価（Zスコア等）及び結果検討会

■ 大気・臭気WG

共同実験「排ガス中の水銀分析方法」（H27）

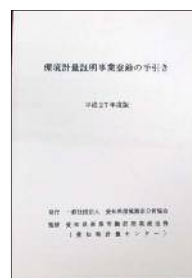
■ 騒音・振動WG

共同実験「音の障害物等による回折効果の影響について」（H28）

● 乾式ガスメーターキットの共同開発 S61



● 技術委員会



3. 主な活動の記録

昭和 52 年～昭和 58 年

- 昭和 50 年 6 月 19 日 (社) 日本環境測定分析協会 中部支部結成
- 昭和 52 年 8 月 9 日に「愛知県環境測定分析業協議会」を設立
- 会員台帳の整備、「東海北陸環境ニュース」の発行
- 計量証明様式の統一を図るための報告書作成委員会、計量法に基づく技術分野の不明確部分の統一見解等をまとめる技術委員会を設置
- 昭和 54 年、愛知、静岡、岐阜、三重の 4 県にて「東海環境計量連絡協議会」を発足
- 昭和 55 年、地域別に 6 ブロック組織を編成
- 環境計量証明事業者数が全国的にも急増し、特に騒音関係の登録が顕著
- 全国初の「ガスメーターの精度管理のための一斉調査」を定期開催

● S52 愛知県環境測定分析業協議会設立会議



● S50 (社) 日本環境測定分析協会
中部支部結成 (名古屋商工会議所にて)



● S54 東海環境計量連絡協議会総会



昭和59年～平成6年

- ・昭和59年「愛知県環境測定分析業協議会」を「愛知県環境測定分析協会」に名称変更
- ・金山に事務所を設置し、事務局担当理事を新設、及び専任の事務局長を採用
- ・協会広報紙「愛環協」を発行（当初は手書き）
- ・協会事務所に無料相談窓口を開設
- ・昭和61年、事務局内に日環協中部支部事務局を併設
- ・愛環協法人化検討委員会を発足
- ・昭和62年、協会設立10周年記念式典を開催
- ・愛環協の協会章を公募の上制定
- ・愛知県環境考察代表団中国視察（蘇州、南京、上海）に、愛環協より11名が参加
- ・東海環境技術発表会等を開催（以後毎年開催）
- ・平成4年、協会設立15周年として、「協会事業15年の歩み」を作成

● S62 愛知県環境測定分析業協議会 設立10周年



協会設立10周年記念事業として協会章を公募し、東亜合成化学工業株式会社の鷹羽幸和氏の作品に決定しました。

この協会章は、平成2年に商標登録されました。

● H4 敦賀原子力発電所見学



● S59 金山に事務所移転当時



左：初代事務局長の森外史氏
右：前会長の濱地光男氏（現顧問）

平成7年～平成14年

- 平成8年3月12日に「社団法人愛知県環境測定分析協会」として法人化し、設立総会を開催
- 当協会の主管が愛知県商工部から愛知県環境部に移行
- 平成8年、協会広報紙「愛環協」が活字化（第47号）
- 日環協中部支部と共催し、日環協・環境セミナー全国大会 in 四日市を開催
- 四日市にある国際環境技術移転センター（ICETT）より海外研修生を受け入れ、会員企業の協力の下、講習会や実習を開催
（以後、平成11年までの受入数は毎年20名～40名）
- 平成12年9月に東海豪雨が発生、被害を受けた会員9社に見舞金を贈る
- 平成13年、協会設立25周年記念式典を開催し、25周年記念誌「新しい世紀の環境創造をめざして」を発行
- 平成14年、土壌汚染対策法が施行されるにあたり、講演会を複数回開催

- H8 社団法人愛知県環境測定分析協会として法人化



- H10頃 総会受付



- H10頃 施設見学会



● H11 騒音測定実習会



● H13 頃 総会懇親会



● H14 技術講演会



25周年記念誌「新しい世紀の環境創造をめざして」のなかの座談会の一部を抜粋 —事務局担当理事であった濱地氏の発言より—

愛環協を設立して半年たった頃、初代村山会長から、30歳そこそこの私に協会担当理事としてハンコを持って事務局の面倒をみてくれと言われました。

その後、村山会長がお亡くなりになり、次期会長をどうするかを総務委員会で検討を始めましたが、なにより愛環協の法人化を推進していただける方として、私はテクノ中部の藤原氏を推薦したところ、濱地お前が口説いて来いということになり、お願いに伺ったところ、こころよく引き受けていただきました。

愛環協で行う行事も多くなり、新しく教育研修委員会を立ち上げ、私が手を挙げました。私の中には、これから協会を支えるのは教育であり、研修を十分にやっつけていかなければならない。業界の安定も、適正な料金などにもつながっていくのではないかと。調査や研究といった報告書をできるだけ多く出し、愛環協を社会に認知していただくことが法人化の一つの要件と考えていました。

平成 15 年～平成 24 年

- ・平成 15 年、愛環協新会長に濱地光男氏を選出し、新世紀に対応する協会の刷新を開始
- ・環境分析に関する精度管理、温暖化防止及び生物多様性の推進等のその時期のトレンドをテーマとした「喚起標語」を正会員から募集、入選作を翌年度の喚起標語として配布
- ・平成 17 年、協会広報紙を「あいかんきょう」に改め、内容を大幅にグレードアップ（第 84 号）
- ・平成 17 年、自然の叡智をテーマに、愛・地球博（2005 年日本国際博覧会）が愛知で開催
- ・平成 19 年、愛環協設立 30 周年記念式典が開催
- ・公益法人制度改革対応のための準備委員会を設置
- ・平成 20 年 11 月、海外調査事業として、タイを訪問
- ・平成 21 年、景況に関する意識調査（受注動向やその要因に関するアンケート）を実施し結果を機関紙に掲載（景況調査は以後毎年継続）
- ・平成 22 年、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が愛知で開催
- ・COP10 開催記念事業として、愛環協写真コンテストを実施
- ・平成 22 年、日環協中部支部と共催にて日環協・環境セミナー全国大会 in 名古屋を開催
- ・平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、同時に原子力発電所より大規模な放射能汚染が発生。日環協と連携して募金を行い、7 月に日環協・他の県単に先駆けて、「東日本大震災現地視察」（東北緑化環境保全㈱他を訪問）を実施
- ・平成 24 年 5 月、現地視察第 2 回を実施し、「環境計量証明事業所の危機管理」と題した講演会を開催
- ・平成 22 年より、愛知県と「災害時における化学物質等の調査に関する協定書」の締結について検討を開始し、平成 23 年 3 月 18 日に愛知県と愛環協で締結（協定では、大規模な災害が発生した際、愛環協は愛知県の要請を受け、組織的に化学物質等の調査を最優先で行う等を確認する内容）
- ・愛環協の対応組織として、災害時緊急対応委員会を設置
- ・平成 24 年 4 月 1 日に、公益法人制度改革に伴い、一般社団法人愛知県環境測定分析協会に移行
- ・平成 24 年、愛環協設立 35 周年行事を実施
- ・平成 25 年 3 月、首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）環境計量協議会連絡会と、合同研修会及び意見交換会を開催

愛環協主催の喚起標語の入選作

年度	喚起標語（入選作）
平成 16 年度	守ろうルール、残そう記録、精度管理の第一歩
平成 17 年度	精度管理 一人一人が責任者
平成 18 年度	計量は正確、精密、誠実に
平成 19 年度	信頼と 品質高める 精度管理
平成 20 年度	温暖化 防止をになう 環境分析
平成 21 年度	計量も ムダムラなくして 省エネで
平成 22 年度	計量で 明日へつなごう 豊かな自然
平成 23 年度	環境とくらしをまもる 確かな測定
平成 24 年度	未来ある地球の明日を守るため きちんと測定確かな証明
平成 25 年度	信頼は 一つ一つの積み重ね ルールを守って正しい計量
平成 26 年度	慣れた計器もしっかりチェック 今日も納得 分析結果！！
平成 27 年度	技術は競走 社会は協奏 環境づくりは共創で
平成 28 年度	確かな精度で 守ろう環境 築こう信頼
平成 29 年度	正しい手順で 正しく計量 基本が築く精度管理

● H22 日環協・環境セミナー全国大会 in Nagoya



● H24 環境計量士等研修会



● H24 首都圏環境計量協議会連絡会と合同研修



平成 25 年～平成 29 年 7 月

- ・平成 25 年 5 月 愛環協新代表理事に河野達郎氏を選出
- ・平成 25 年 7 月 濱地前会長を囲む会を開催（愛知県環境功労者表彰受賞記念）
- ・平成 26 年 2 月 12 日 豊橋市と「災害時における環境安全の調査等に関する協定書」を調印
- ・平成 26 年 4 月 山形市にて日環協東北支部と愛環協の合同研修会開催
- ・平成 26 年 11 月 日環協・経営者セミナー in 仙台にて、大野副代表理事が「愛環協が地元自治体と締結した「災害緊急時の化学物質調査に関する協定書」の締結の背景や今後の対応等について」を特別講演
- ・平成 27 年 4 月 愛環協にて「女性の活動推進のための意見交換会」を開催（関東支部「輝く女性の力」企画と連携）
- ・平成 27 年 4 月 （一社）愛知県産業廃棄物協会との異業種交流会
- ・平成 27 年 7 月 九州支部と愛環協の意見交換会「教育研修実施に関する課題と対策」
- ・平成 27 年 11 月 （一社）日本環境アセスメント協会中部支部との異業種交流会
- ・平成 28 年 5 月 30 日 豊田市と「災害時における環境調査に関する協定書」を調印
- ・平成 28 年 9 月 愛知県と大規模地震災害を想定したアスベスト大気環境調査訓練を実施
- ・平成 28 年 10 月 中部支部主催の「日環協・環境セミナー全国大会 in 岐阜 by 長良川」の開催に協力
- ・平成 28 年 11 月 長野県単との協会法人化問題検討会
- ・平成 28 年 12 月 愛環協親睦フットサル交流戦を開催
- ・平成 29 年 7 月 愛環協設立 40 周年記念式典を開催

● いづみ F.C.



● 環境科学研究所 F.C.



● 東海技術センター F.C.



● H25 濱地会長を囲む会



- H26 日環協東北支部と愛環協の合同研修会



- H26 豊橋市との災害緊急時の調査に関する協定締結



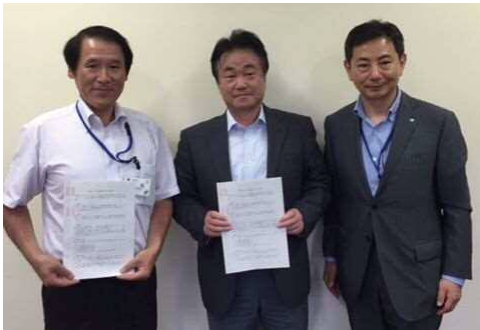
- H26 日環協・経営者セミナー in 仙台



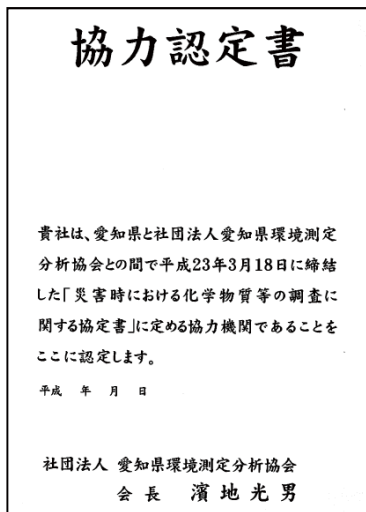
- H29 愛知県と大規模地震災害を想定したアスベスト大気環境調査訓練



- H28 豊田市との災害緊急時の調査に関する協定締結



- H23 愛知県との
「災害時における化学物質等の調査に関する認定書」の
協力機関認定書



- H24 濱地会長が愛知県環境功労者表彰を受賞



- H28 日環協・環境セミナー全国大会 in 岐阜 by 長良川



4. 愛環協の今後の課題と提言

愛環協は環境計量証明事業者と共に40年という年月を共に支え合いながら今日まで歩んできた。環境における考え方や、測定・分析は時代と共に大きく変化してきたことは言うまでもない。

当初は公害を防止していくことが目的であった測定・分析も、現在においては未然に環境破壊を防止し保全していくための測定・分析へと変化してきたのである。このような時代の変化に伴い、測定・分析を必要とする物質は多義にわたるとともに、微量域の測定・分析が要求される時代となってきたのである。40年ほど前は大量の試薬を使用し分光光度計で分析を行ってきた時代から原子吸光光度計に変わり、現在ではICP-MSなど精密かつ高度な機器を使用し、それらに対応できる技術者が必要な時代となってきたのである。

しかしながら目覚ましいIT性能の向上と測定・分析価格の競争により場合によっては規定された分析手法を逸脱することが懸念される自動化、合理化が進められ、一部の技術者はオペレーターに変貌し、出力されたデータの異常に気が付かない状況も出てきているのではないだろうか。

技術者にはもう一度測定・分析技術の原点に戻り、基礎的な教育を行っていくことが必要ではないかと考える。

環境における規制物質も、近年では物質数は増加するもの対象となる企業は自主的に目標を設定するなど努力義務に変化し、以前のように業種による排出基準と測定・分析頻度を定めるなどの規制物質が今後増加するとは考えにくいのである。このようなことから検査・分析ビジネスも当然今後大きな成長は期待できないと考えられる。

仮に放射能測定のように新たな検査・分析が必要な物質が今後発生したとしても、新たに高価な設備を導入しなくてはならない物質であろうことが想像できるのである。

日本では依頼者の習慣から分析会社の得意不得意にかかわらず1分析会社に依頼をまとめることが一般的で、海外の分析会社のように測定・分析機器でまた依頼分析項目に特化して受託することが難しい状況にある。このことは特定の設備に原資や人材を集中することができにくく、中小の分析会社では一応なんでも対応できる設備を1台ずつは保有したデパートで原資や人材が分散しており、今後ますます経営が苦しくなる状況が見えてくるのである。



環境分析が主体である中小分析会社は資本力が高い大手企業、海外からの進出企業に負けぬ今以上の基盤強化が必要と考える。基盤強化には行政の力と協会として関係機関への政策提言は必要であろう。

環境分析会社ほど多業種と取引している業界も少なくない。どのような業種の顧客であっても必ず何らかの問題を抱えているはずである。このような顧客の新たなニーズにも目を向け、各社長年蓄えた技術と人材、研究所並みの設備を生かして新しいビジネスへの発想と挑戦が必要であろう。

前愛環協代表理事 現愛環協顧問
前日環協理事・中部支部長 現日環協監事
濱 地 光 男

愛知県環境測定分析協会の歩み

発行 平成29年7月21日

【発行元】 一般社団法人 愛知県環境測定分析協会
〒460-0022
名古屋市中区金山一丁目2番4号 アイディ・エリア405号
TEL(FAX)052-321-3803

【発行責任者】 河野 達郎

【表紙写真】 「槍ヶ岳山頂から見た北アルプス穂高岳連峰」
株式会社環境公害センター 犬飼量子氏 撮影

愛環協創立40周年記念事業実行委員会

【実行委員長】 大野 哲
【副実行委員長】 林 昌史 角 信彦
【実行委員】 阿部 裕士 氏原 和彦 大場 恵史 田村 励治
波多野 群樹 濱地 清市 林 辰哉
【事務局】 杉本 利幸
【スタッフ】 菊谷 彰 前田 香織